

器の大きい人は、怒りを優しさで表現する。

「この人は器が大きいな」

そう感じたのは、20代前半のある日の休日でした。

誰に感じたのかというと、実は9歳年上の彼女でした。

私は彼女とデートの約束をしていました。

約束の時間、私は事情があつて遅刻をしてしまいました。

遅れたのは10分ほどでした。

本来デートでは、約束の時間前に到着するのがマナーです。

大事な人と一刻も早く会いたい気持ちがありますから、待たせるなんてできません。

にもかかわらず10分も待たせてしまう。

もちろん遅刻をするのがよくないのは分かっています。

よく分かっているだけに「やってしまった」と思いました。

「遅刻が原因で喧嘩して別れることになるのでは……」

そういうときに限って、縁起の悪いことを考えます。

「遅刻はいけないよ」と言っている本人が遅刻をすることほど、恥ずかしいことはありません。

身支度を済ませて、急いで約束の場所へ向かいました。

朝食のパンを口にくわえながら家を飛び出すサラリーマンのような感じです。

急いで約束の場所へ向かっていると、彼女からメールが来ました。

当然、お怒りのメールだろうと思っていただけに、度肝を抜かれました。

「今どこにいるの。早く会いたいよ」

優しいメールでした。

無性に心苦しかった。



それは彼女からの「遅刻はするな」という警告です。

本当は「遅刻するなんて許せない!」と言いたかったのでしょう。

怒りをぐっところえているのがよく分かります。

「遅刻するな」を「早く会いたい」という言葉で言い換えています。

泣きそうでした。

これが彼女の器の大きさです。

いらいらした気持ちに任せて「いらいらメール」を送るのではありません。

それは普通です。

いらいらをぶつけると、喧嘩になります。

器の大きい人は、いらいらしてぶつけても喧嘩になるだけだと分かっています。

いらいらの気持ちを、できるだけ別の表現に言い換えるのが上手です。

たかがデートの待ち合わせとはいえ、その人の素顔が見える瞬間でした。

「すごいなあ。私もこういうところを学ばなければいけないなあ」

年上の器の大きさにしびれた一件でした。

器の大きい人になる方法 その1

「遅刻するな」を「早く会いたい」で言い換える。